

演されると、活発な質疑応答が行われ、会場が熱気に包まれました。講演20名、ポスター発表6名、懇親会での議論、若手優秀発表賞の贈呈など、多くの内容を含んだシンポジウムでしたが、日程はつつがなく進行了しました。本シンポジウムによって培われた研究者間の繋がりを元にした共同研究によって、今後熊本の医学・生命科学研究がより発展することが期待されます。

最後になりましたが、本シンポジウムの開催にあたり多大なご支援を賜りました肥後医育振興会の先生方および関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第22回運動器科学研究会 開催報告

熊本大学大学院生命科学研究部整形外科科学講座  
教授 宮本 健史  
(第22回運動器科学研究会代表世話人)

この度は第22回運動器科学研究会に助成金を賜り誠にありがとうございました。研究会を予定通り開催し、特に大きなトラブルもなく会を終了できましたので、報告させていただきます。

本研究会は文字通り運動器に関する研究を皆で議論するために発足した会で、今回で22回目の会であり、熊本で開催されるのは初めてのことになります。本研究会は2023年9月8日から9日にかけての2日間、熊本市国際交流会館および城見櫓にて開催し、東京や大阪、広島、鹿児島など全国から参加された運動器の研究者に、熊本大学からの参加者が一堂に集い、まだ未発表の内容を多く含む最先端の研究成果の発表と、活発な質疑応答がなされました。もともと会の発足当初からそれほど多くの人数を集めて行う形式は取っておらず、今回もその伝統にならってラボミーティングを意識した、質疑応答を重視した会として開催しました。参加者は59名で、特別講演を含め全部で29題の演題発表がありました。各演題ごとに十分な質疑応答の時間を用意していたにも関わらず、セッションとセッション



の間の休み時間がなくなるほど、白熱したディスカッションがなされ、会としては盛況のうちに終えることができました。発表内容は骨代謝や筋肉、腱、靱帯、軟骨、歯、骨系統疾患、椎間板など多彩で、質疑応答の時間に収まりきれないものは、休憩時間や意見交換会の中でも活発に議論がなされました。本会は昨年松山市で開催されましたが、その前の2年間は新型コロナウイルス感染症の影響で開催が見送られていた経緯もあり、今回無事熊本で現地開催できたことを嬉しく思っています。残念ながら1名の方が、新型コロナウイルスに感染したために、発表と参加を見合わせることにになり、また一部の参加者が関東に接近した台風の影響で到着が遅れましたが、それ以外には大きな問題もなく、発表の順番を入れ替えるなどで対応することができました。来年は大阪大学の担当で、大阪で開催されることが決定し、来年の大阪大学の担当者に引き継ぎ等を行いました。今回いただきました助成金は、会場費や参加者のネームストラップなどの消耗品費などの一部に使用させていただきました。助成金を頂きましたことで、無事に会を開催することができました。今回の会の代表世話人としてここに感謝を申し上げます。

## 日本遺伝学会第95回大会 開催報告

熊本大学生命資源研究・支援センター  
センター長 荒木 喜美  
(日本遺伝学会第95回大会 大会委員長)

日本遺伝学会は、日本育種学会を前身とし1920年6月に設立され、2020年度に100周年を迎えた歴史ある学会です。細菌から高等生物まで「いきもの」全てを対象とし、「遺伝」つまり、「生物はどのように命をつなぎ、なぜ子は親に似て、かつ、なぜ皆少しずつ違うのか」という謎の解明を目指す研究者が集い、年に1回研究成果発表を行う大会を開催しております。

第95回熊本大会は、令和5年9月6日(水)～8日(金)の日程で、くまもと県民交流館パレアにおいて開催されました。新型コロナが第5類になり、基本現地開催としましたが、353名もの参加者をお迎えでき、活気のある学会だったと思います。

利便性を考えて、会場を大学ではなく繁華街の中にあるくまもと県民交流館パレアとし、また、大会の準備段階から当日の運営まで学会イベントに精通したコンベンションサポート九州に業務を委託しました。